

平成19年度 第3回松山地域協議会会議録（概要）

日 時 平成19年9月4日（火） 9：30～12：15

会 場 松山総合支所 講堂

◎出席者

1号委員	齋藤 勝	富樫 茂	阿部 茂	寒河江 久也	小田 和夫
	齋藤 尚	今田 充代	須田 良		
2号委員	山中 俊	土田 迪子	齋藤 薫		
3号委員	遠田 聡	佐藤 洋子	木村 美津枝		

松山総合支所 支所長 後藤 吉史 地域振興課長 新館 篤  
市民福祉課長 大場 昭一 建設課長 川田 進  
産業課長 難波 富也 教育振興室長 須貝 彰  
地域振興課 課長補佐兼地域振興係長 阿部 みえ  
主任 佐藤 伸 主事 乙坂 哲也

◎欠席者

1号委員 佐藤 ゆき子

◎傍聴人 1名

◎議事日程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 会議録署名委員の選出
- 4 報告事項  
○松山タウンセンター構想（素案）について
- 5 協議事項  
(1) 平成20年度地域づくり予算について  
(2) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

1 開会・・・進行を務める地域振興課長が開会する。

2 あいさつ

(会長)

ご案内申し上げた会議の次第は、来年度の地域づくり予算の協議、タウンセンター構想についてであるが、場合によっては、タウンセンター構想の素案についても協議していきたいと考えている。

本日の委員の席についてだが、今までは定位置で会議を行っていたが、場所を変えることによって新たな意見や発想が出てくることもあると聞いたことを思い出し、こういう形を取らせていただいた。大意はないので、今までと同じようにご意見をいただきたい。

(支所長)

昨日から定例議会が開催されている中で、地域協議会を開催するが、来年度に向けて色々ご意見をいただけるようよろしくお願ひしたい。

3 議長及び議事録署名委員選出

○地域振興課長 会議録署名人の選出について協議会施行規則第5条により委員1名を選出する今回の会議録署名人を齋藤薫委員にお願いしたい。

これより会議の議長を協議会設置条例第6条第2項により山中会長にお願いする。

4 報告事項・・・松山タウンセンター構想(素案)について地域振興課長が説明。

(質疑応答)

○山中会長 素案について意見をお聞きしたい。

○阿部委員 公民館長が招集されて、タウン構想の話がされた時にも話したことだが、新しく建てるとの予定の保育園の建設構想が全く無いため、我々がこの情報だけを見て意見をだすのは難しいと考える。どういう形の保育園が建設されるのか、グラウンドや遊び場、プールなどおおよその保育園の構想が無ければ意見を言ってくれと言われても困る。どのくらいの規模で保育園を建設するのも示されていないので判断できない。

信用金庫跡地への支所移転だが、増改築をして使うということのようだが、それで支所機能が確保できるのか。可能かどうかわからないが、エリアを工業団地まで広げて、余裕をもって新しい建物を作った方がいいのではないか。

○齋藤(尚)委員 7月12日に地域協議会が開催された際は、はっきりしないものしか示されなかったが、今回これだけしっかりしたものが示された。7月12日の会議時になぜ今回のようなしっかりしたものが示されなかったのか説明いただきたい。

今日は、統合保育園についての話し合いだと思っていたが、タウン構想についてということなので、新たな視点で考えなければならない。なるべく施設を動かさないというのが原則だと思うが、どうせなら、広い場所に保育園を建てた方が良く思った。

- 地域振興課長 6月12日に企画調整課からタウンセンター構想をいただき、まず、支所の職員の考え方をまとめ有識者へ報告し、8月いっぱい時間をかけて打ち合わせを行った経緯もあり、地域協議会の委員の皆様には今日お示しすることになった。
- 小田委員 全体的には、いろいろ網羅して考えたものだと思うが、商工会としては、タウンセンターのコアの部分をにぎわい広場やまつやま会館まで広げていただきたいと考える。また、タウン構想の「賑わい」という観点から、工業団地もエリアに入れたらどうか。保育園の果たす機能も含め検討しながら、タウンセンター構想を進めていただきたい。時代の流れに即したものになるよう考えて作るべきだと思う。
- 齋藤（勝）委員 会議に来る前に支所の移転先候補である信金跡地を見てきたが、リフォームしても、限りがあるように思える。新しいものを建てる方がいいのではないかな。有識者から聞いた意見があるようであれば、それも含めて説明して欲しい。
- 富樫委員 基本的にこのエリア構想には賛同できるが、有識者の意見をまとめたものを出してもらえれば意見も出しやすい。総合支所は松山地区の市民からすればシンボリックなものだと思うし、改築などは逆に経費がかさむ場合があるので信金跡地を利活用するのではなく、支所の力を発揮して新しいものを作る予算を確保することも大切ではないか。
- 山中会長 あくまでも素案ということなのだが、支所としてはいつまでこの案についての意見を本所にあげる必要があるのか伺いたい。
- 地域振興課長 9月いっぱい支所の方の考えをまとめる予定である。支所内で検討した中で職員からは信金跡地だけでは、支所機能を維持していくことは難しいという意見や、既存の施設を増築し改善センターと一体化することで、支所機能を維持したらどうかという意見もあった。現在、支所職員は45人いるが、移転時の支所職員の人数は30人を想定し、構想を考えている。
- 今田委員 場所については分かったが中身が示されていないので、保育園の規模だけでもどれくらいを想定しているのか知りたい。  
支所の移転についてだが、信金跡地への移転となると市民福祉課の窓口業務ぐらいしかできないと考える。平田タウンセンターは若者も結構集まっているようだが、ここの支所には用がないと来ないように思う。平田のような人が集う建物にしてもらいたい。
- 齋藤（尚）委員 前から感じているが、この問題はまちづくりの根幹をなすものだと思う。まちづくりの構想は行政から与えられるものではなく、住民が作っていく方が良いものができると思う。新しい支所が出来たとすれば、合併して良かったと住民に知らせる良い機会だと思う。旧町時代に建てられた建物は非常に使いづらい。この際立派なものを建てたらどうか。酒田市松山地区の保育園はすごいと言われる保育園を建てて、賑わいを持って発展して欲しい。まちづくりは住民が主体となって進めた方が発展するはずである。
- 木村委員 支所は新築が望ましいと思う。新築にしても増築にしても信金跡地には建設するための十分な面積は確保できるのか。
- 地域振興課長 説明が足りなかったが、信金跡地西側の医師住宅とシルバー人材センターの建物

も解体し、その敷地も含めて新築若しくは増築で考えていく。

- 富樫委員 構想の案は1つしかないのか。予算についても試算したものがないと、いつまで経っても綱の引き合いになる。信金跡地の用地買収費や工業団地の用地買収費、また、造成したときの補助金の問題とかあると思うが、どの方法が有利なのか、そういったことも検討するべきでないかと思う。

市のほうでは平成21年度に公民館を廃止する方針のようである。この地域でもそうなると思うが、今まで公民館がやってきた生涯学習はどこで受け持つのか。平田や八幡には中央公民館があるが松山にはない。3支所の中で設備が一番不足しているのは松山だと感じる。地域で格差が出ないような行政の進め方をしていくべきだと考える。21年度に公民館を廃止するのであればその受け皿を作ることは行政として当然と考える。新しい支所は公民館機能も含めた施設にしたらどうか。

- 地域振興課長 支所内の職員で検討した案は4～5種類あり様々議論されたが、補助金返還や移転に伴う内部改造費用、用途や機能などを考慮した結果、本日示した1つの案になった。21年度のコミュニティについても視野に入れて考えている。

- 市民福祉課長 保育園の機能についてはいろいろな意見があるが詳細についてはこれから検討していく。規模については、敷地面積から言うと、通常旧酒田市管内にある保育園は約4,000㎡、最近建設された八幡の保育園は約10,000㎡ある。園児の安全面からあまり広すぎても問題があると考えている。松山の庁舎では支所敷地が公民館を入れて8,000㎡くらいあるので、十分な面積と考える。詳細については、プロジェクトチームを作って検討している。

- 富樫委員 タウン構想の実現に向かっでの予算的な制約は示されているのか。

- 地域振興課長 詳細な金額についてはまだ検討中である。

- 富樫委員 市側からあげる構想ではなく、市民に向かった構想を考えるのが行政と考える。保育園を建てなければならないので支所をどうするかという問題ではないのではないか。賑わいというのは地域の活性化である。支所を中心にして商工会などと協力しながら構想を練っていくべきである。

保育園建設は21年度のことか。

- 市民福祉課長 スケジュールからすれば工事は20年度後半からかと思う。

- 富樫委員 だとすれば、保育園が出来る前に、支所をどこに移すかというエリア構想が出来ていなければならないわけである。保育園を建てるために支所を解体することになるので、その前に支所をどこに置くかということも考えていなければならないのではないかと。市民が集まりやすいタウン構想をしっかりと考えていただきたい。

- 小田委員 今までの松山では歴史・文化、眺海の森が話題に上がってきたが、そのことも支所機能に含めてタウン構想を推進して行ってほしい。

- 支所長 富樫委員がおっしゃった意見の通りだと思う。交流の場が賑わいにつながると思うが拠点はどこに置くかも重要な要素と考える。信金が営業している形であればいいのだが、今のまま放置しての構想は考えにくい。工業団地については、働く場所の提供という意味からこれま

でこだわって進めてきた経緯がある。昼間地域外で働いて夜帰ってくるというだけで地域が成り立っていくのかどうか。また、現在の支所は冷房も無いので、このまま放っておくわけには行かない。当初はここに保育園を持つてくる考えはなかったが、賑わいを考えた結果、このような案になった。支所機能の充実も大切だが、現在の松山のなかでお金をかけるべき部分は支所なのか考えていただきたい。この案については、7月12日の段階では委員皆様に示されるレベルに無かったので、今日の提示となった。これからも色々な面で意見をいただきたい。

10:36 休憩

10:48 再開

## 5 協議事項

(1) 平成20年度地域づくり予算について・・・地域振興課長説明。

- 地域振興課長 平成20年度からは支所内で創意工夫を重ね、地域の特色ある事業展開ができる予算編成を行う。予算は枠内予算として取扱い、予算額は前年度ベースで5%減とする。
- 山中会長 委員の皆さんが日頃考えていることをお話ししていただきたい。
- 小田委員 現在、商工会の合併について来年4月1日を目標に酒田市ふれあい商工会という名称でスタートできるように進めている最中である。商工会における本来の事業のあり方を考え、委託事業として受けていたものをどう取り扱うのか心配している。行政との関わりとしては、今後は本所よりも総合支所との関わりがより密接になってくるかと思う。
- 阿部委員 前回の7月12日の地域協議会の時にアメリカのライトハウスチャータースクールとの交流事業とはばたき事業との統合について話し合ったが、その後の進展について伺いたい。
- 教育振興室長 最終的にまだ統合とは決まっていない。先日、アメリカのライトハウスチャータースクールの先生方とも意見交換をし、当地域での課題、問題等を相手校に話した。相手校としては、酒田市の最終的な判断に任せるといった考えのようである。事業の廃止（はばたき事業に統合）となれば、それはそれで致し方ないということだった。教育委員会では、そうしたはばたき事業の中でも、ライトハウスチャータースクールとの関係の継続も含め、今現在検討している状況である。経費面や受入れ規模についても含めて協議を行っていく。
- 小田委員 合併により有意義に行ってきた事業がなくなるということには異論がある。受入れ家庭の苦労や経済的な問題はあるようだが、受入れと派遣を行っているのはこの地域だけなので、派遣人数や補助額を減らしても継続して欲しい。受け入れ方法については、個人的ではなく市民団体、行政、学校をあげて対応していくべきではないかなと考える。「さんさん」あたりに宿泊して地元中学生との交流を図ることも一つの方法である。事業の趣旨を曲げずに継続して欲しい事業である。
- 阿部委員 よく公民館に「街を案内してくれる人はいませんか」と県外からのお客さんが来るが、観光ボランティアの方々の名簿が公民館にもないため対応に困っている。観光ボランティアについてはPR不足と感じている。連絡体制だけでも整備できないものか。また、松山地域に観

光パンフレットがどれくらいあるかわからないが、気軽に立ち寄れる場所に観光パンフレットを置けないものか。観光をメインにするのであれば、もう少し力を入れていただきたい。

- 齋藤（尚）委員 ふれあい松山交流事業について、松山会は3団体あり、以前から議員さんが出席しているようだ。地域協議会の委員も総会に参加できるように工面できないものか。ふるさと会の方々と意見交換をして各地から情報提供をいただければ地域発展につながるのではないか。桐生市との交流についてもこの中から派遣することができれば、地域協議会の委員の質も変わってくるのではないかと思う。
- 須田委員 屋外に出ていると、松山は道が入り組んでいるためかよく道を聞かれる。目的地までたどり着けるような道案内版のようなものが所々にあれば良いと思うが、実際のところ松山にはそういったものはあるのか。
- 産業課長 観光に関しては、地域住民みんなで協力しながら受け入れることがポイントだと思う。観光ボランティアについては、まだまだPR不足の面があると感じている。今後、公民館との連携も十分に図っていききたい。松山地域の独自の観光パンフレットについては、正直なところ今現在はないが、商工会の青年部と協議しながら作成しようとしている段階である。まちの案内表示板についてもない状況なので、先ほどお話しした松山地域独自のパンフレットを活用しながら、地域全体で受け入れる形を作っていきたいと考えている。
- 齋藤（薫）委員 2年位前から商工会が窓口となり自分たちに何か出来ないかを考え、まちの案内処や麵処などの看板を手作りで作成した。そういった看板で街の一体感を出そうと考えた。パンフレットについては今後検討を重ね作成したいと考えている。観光協会の事務局は、現在、産業課に置かれているが、観光協会の看板を掲げて対応していければ、松山を訪れた方々に観光ボランティアの紹介など充実した情報の共有ができるのではないか。また、そのような取り組み対して地域づくり予算から支出できるのであれば是非そうしていただきたい。
- 山中会長 松山観光協会は酒田観光物産協会の支部という位置づけなのか。
- 産業課長 支部として対応している。事務局も産業課で受け持っている。
- 富樫委員 新館課長から説明があったことについて、枠内予算、5%シーリングというのはどのように理解すれば良いのか。昨年も聞いたが地域づくり予算の裁量権は支所にあるのか。また、新規事業は可能なのか。もし可能でないのであれば、我々が意見を言っても仕方がない。
- 地域振興課長 20年度に廃止される事業をカットした分の5%ダウンである。19年度予算はふれあい松山交流事業など事業名を変えずに中身だけを組み変えて予算要求した経緯がある。20年度予算は支所の裁量がきく枠内予算として位置づけられたが5%減は変わらない。そういったことも含め、大いに議論して進めていきたいと考えている。
- 富樫委員 例えば花いっぱい事業では、業者委託が大部分である。それでは市民参加にならないし、地域の活性化につながらないと思う。種から配布する事業も酒田市で行っているが、一般の市民が種から育てることは難しい。各自治会に花苗を提供して行う事業に取り組むべきである。それが、市民レベルの地域づくりだと思う。
- 地域振興課長 中身を分析していくと様々な課題はあるが、花いっぱい事業は松山管内では30

0万円と非常に突出している事業なので市民と協働して花いっぱい事業を展開することが出来れば、その分を他の事業に回すことができると考えている。

- 富樫委員 眺海の森などの公共施設部分については、市が管理していくのは当然と考える。公共施設の空き地を利用し実施するのが市民活動だと考えるので、視点を変えていただきたい。地域づくり予算については5年間の予算と聞いている。あと2年くらいあるので、有効的に予算を使っていくべきである。
- 支所長 花いっぱい事業は酒田市全体としても行っているが、松山で実施されている内容はそれには合っていない。公共施設がメインで松山独特のやり方で行っている。花いっぱい事業を今後進めていくためには、富樫委員がおっしゃる内容しかないと考えているが、皆さんから意見をいただきながら検討していきたい。
- 今田委員 青少年国内外交流事業について、来年度はばたき事業に統合した場合、その分の予算は削られるわけか。そういうことになれば、今の事業を生かしておいた方がいいということになるが。
- 地域振興課長 統合ということになれば、予算はばたき事業に計上されるのでその分は少なくなる。
- 小田委員 やはり、事業の趣旨を大切に事業を継続していくべきだと考える。
- 支所長 枠内予算は各部の自由裁量が与えられるものである。ただし、地域づくり予算については、それほどの裁量が支所に与えられていない部分もあると思う。地域づくり予算の性格を少しは変えたいということから、まだ流動的ではあるが、新規事業は全くダメというような制約は外れそうである。市長も話しているが、地域独自の事業は支所に任せてはどうかという考えで縛りは緩んできたと考えている。内容が昨年と同様なので議論しても無駄だと決めつけず協議していただきたい。
- 小田委員 観光案内については、いろいろな人のニーズに対応したPRを行っていくべきだ。名所はどこなのかなどわかりやすいパンフレットがあれば重宝と思う。観光ボランティアについては、案内することが義務になってしまうとボランティアにならないと私は考えている。  
事業の持ち方について、酒田市ではこうだからあなたもならえと酒田市の職員がよく口にする。合併して地域の裁量権が少なくまだ固い感じを受ける。赤松ヒュッテの地域の整備もどうなっているのか疑問に思うこともある。地元の人が遊べるような整備開発をみんなで考えていかなければならないのではないかと。
- 佐藤(洋)委員 先日、眺海の森に登ったときに眺海の森の駐車場に若い人たちのバイクが何台かあった。ぐるぐるグリーン窓ガラスや建物の管理は大丈夫なのか。また、今後は建物をどのように利用していくのか。
- 産業課長 ぐるぐるグリーンは現在、無料休憩所として利用していただいている。朝鍵を開けて、夕方鍵を締めるようにしている。本来は直売所であるので、いろいろ出店者を募集しているが、なかなかいないのが実情である。催し物も検討しているが、やはり直販という形で進めていきたい。

- 木村委員 平田の方から来る観光客のことも考えて、要所要所に施設の案内板を設置してもらえるとありがたい。
- 富樫委員 それらの看板作成費を地域づくり予算で対応すべきである。
- 齋藤（勝）委員 集落看板の補助について、松山管内で実施した自治会はあるか。業者に頼んでは補助対象にならないということだったが、自治会で間伐材を準備したり、一から作成するのは難しいと考える。
- 地域振興課長 1自治会申請して完成している。
- 山中会長 看板に対する補助制度については、地域の実態に合った要綱に改正していただきたい。
- 地域振興課長 合併補助金の財源であり、単年度100ヶ所程度を想定し、3ヵ年継続事業として取り組みたいという方針である。自治会集会施設の修繕についても、要綱が弾力的になってきたので、そういう点でも自治会の看板についても協議していきたい。
- 山中会長 よろしくお願ひしたい。
- 富樫委員 集落の看板については、山寺には字表示がないので、自治会ごとに設置したのでは混乱を招く可能性がある。山寺コミュニティでも取り組みたいと話したが、対象にならないと言われた。
- 山中会長 コミュニティ振興組織のことも踏まえて、地域の要望を全て実現することはでき得ないかもしれないが当協議会の意見を集約して、関係する機関に要望をつないでいただきたい。

## 6 その他

- 地域振興課長 次回の会議日程についてどうか。
- 山中会長 タウン構想についてももう少し協議していきたいと考えるがどうか。規模などの具体的なことがなくても、保育園の跡地利用を含めて共通理解をした上で、統合保育園の理解を深めていくべきだと思う。「賑わい」というのは、施設を利用するだけでは、「賑わい」とはいわないと思う。次回会議日程について9月の下旬でどうか。
- 地域振興課長 地域づくり予算については、今回の委員の方々からいただいた意見を加えて修正し、もう一度、支所内で地域づくり予算について議論していきたいと考えている。地域づくり予算の予算要求締め切りが10月末なので次回会議を10月上旬に開催してはどうか。
- 山中会長 次回会議を9月下旬か10月上旬に開催したい。この地域が良くなるように皆さんのお力添えをよろしくお願ひしたい。時間となったので、本日はこれで閉会する。

## 7 閉会・・・進行の地域振興課長が閉会する。